

● 今月の新着図書 ●

議会図書室からのお知らせ
R5年4月号



『炎上回避マニュアル』
新田 龍【著】/徳間書店

企業・人が炎上した問題発言の数々をSNS、広告、宣伝、発言、サービスからピックアップし、なぜ炎上したのか、何がいけなかったのか徹底的に分析。炎上分析の最前線をゆく著者が、炎上しないためにできる予防策、火消し方法まで伝授する。



『社会の変え方～日本の政治をあきらめていたすべての人へ』
泉房穂【著】/ライツ社

明石市長、泉房穂氏（2023年4月任期満了）のメッセージ。市長になったのは、障害を持った弟に対する冷たい社会への「復讐」のためだったと言う。69票の僅差の当選から、「お金と組織の大改革」の舞台裏までを綴る。



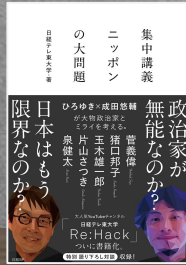
『ウェルビーイングを実現するスマートモビリティ～事例で読みとく地域課題の解決策』
石田 東生・宿利 正史【編著】/ 学芸出版社

モビリティを賢く使い、人々がアクティブに暮らせる地域・事業を創る関係者必読の書。MaaS等の新しいサービスを活用するためのポイントを多数の事例で紹介している。



『全国温泉大全
～湯めぐりをもっと楽しむ極意』
松田忠徳【著】/東京書籍

ガイドブックでは語り尽くせない、本物の温泉の魅力に迫る大著。著者はこれまでに4,000以上の温泉を訪れており、本書で取り上げる宿や温泉施設の数は700軒以上。泉質や効能から外湯巡り・土産物までを網羅した1冊。



『集中講義ニッポンの大問題』
日経テレ東大学・高橋弘樹/日経BP

ひろゆき×成田悠輔が大物政治家とミライを考える。大人気YouTubeチャンネル「日経テレ東大学 Re:Hack」がついに書籍化。「村度皆無」「既得権益と無縁」だからこそ、「大事なこと」が見えてくる！



『ジャーニーシフト
～デジタル社会を生き抜く前提条件』
藤井保文【著】/日経BP

「ジャーニーシフト」とは、顧客が真に求めているもの（顧客提供価値）の変化を表す言葉。今や顧客提供価値は、ものや情報などから、成功体験やありたい社会の実現などの行動支援にシフトしつつあるという。この潮流を理解し、デジタル時代の道しるべとなる1冊。



『不登校の子どもとフリースクール』
武井哲郎 他【編著】/晃洋書房

不登校の子どもの居場所をつくってきた民間のフリースクール。その運営を手がけてきた「実践家」とフリースクールに関心を寄せる「研究者」が共同で執筆。事業継続のための葛藤と格闘、現場の苦悩や失敗に学ぶ。



『持続可能な地域のつくり方』
寛裕介【著】/英治出版

一過性のイベントやハコモノ頼みの施策ではなく、長期的かつ住民主体の地域づくりはどのようにすれば可能なのか？SDGsの考え方をベースに、行政・企業・住民一体で地域を着実に変えていく方法をソーシャルデザインの第一人者がわかりやすく解説。



『「議員に役立つ 地方創生 アイデアブック」』
牧瀬 稔【著】/中央文化社

地方創生を実現するために、地方議会議員は具体的に何をすればよいのか？Iターン、Uターン人口を獲得し、自分達の「まち」の魅力度をアップするためのアイデア・戦略を具体的に解説した書。

トピックス 「森林・林業」に関する書籍（既刊+新刊）



新着

1. 『森林列島再生論 ～森と建築をつなぐイノベーション「森林連結経営」』
塩地 博文・文月 恵理 他【著】/ 日経BP

カーボンニュートラルの時代。日本の森林面積は、実に国土の3分の2に及ぶ。「森林列島」日本を再生するために、林業や林産業ではなく、「森林産業」を構想し、国土を有効活用する事業プランを起草する。

2. 『地域林業のすすめ
～林業先進国オーストリアに学ぶ地域資源活用のおもしろさ』
青木 健太郎/植木 達人【編著】/築地書館

大規模林業と小規模林業が共存して持続可能な森林経営を行なっているオーストリア。オーストリアの林業に学びつつ、日本の農山村が、地域の自然資源を活かして経済的に自立するための実践哲学を示す。

3. 『森林で日本は蘇る
～林業の瓦解を食い止めよ』
白井 裕子【著】/ 新潮社

全国一律の補助金でコントロールする発想、素晴らしい伝統木造をないがしろにする制度、合理性に欠けるバイオマス発電推進、そして国民が知らぬ間に導入される新税…。国は日本の森林資源を活かしきれていない。研究者だからこそ書ける切実なメッセージ。

4. 『スマート林業から林業DXへ ICT林業の最新技術』
加治佐剛、寺岡行雄【著】/全国林業改良普及協会

ICTおよびスマート化技術を活用し、環境負荷や労働負荷の低く、リスク耐性の高い林業が求められている。森林資源利用に関係する各段階において、データを解析し、情報と結びつけることで、「林業DX」をいかに実現するかを考察した書。

図書広報委員がおすすめする一冊

『予言された世界～落合信彦×落合陽一』



紹介者：萩原 渉 委員長

著者：落合 信彦、落合 陽一 /小学館(2022年)

落合信彦×落合陽一親子の共著『予言された世界』の書き出しは、「戦争はいつだって老人が始め、若者が犠牲になる」。

ウクライナ侵攻から丸一年を迎えようとしている2月21日のプーチン大統領の年次教書演説では、「ロシアに戦場で勝つことはできない」とした。戦争はまだ続く。

国際ジャーナリストとして著名な落合信彦氏(1942年生)と、現代の魔術師と言われる息子の落合陽一氏(1987年生)が、それぞれの視点から現代の危機への対応と未来への指針が示されている。

📌 R4年度図書広報委員(10名)最後のおすすめとなります!